

授業研究会ガイドライン（2026年度版）

1. 授業研究会の目的

授業観察と研究会を通して授業を意識化し、優れた取り組みや課題を共有することで、授業の改善や発展につなげることを目指します。同時に、多様な授業形式や教育手法に関する話題など、教育にまつわる情報交換、意見交換を行う教員同士の交流の場とすることも目的とします。なお、他の教員の授業に触れる機会を広く提供するため、授業観察のみの参加も受け付けます。

2. 計画概要

- ① 対象者：本学教員（非常勤講師を含みます）
- ② 対象授業：決定次第、高等教育開発・支援センターHP、授業担当者宛メールでお知らせします
- ③ 構成：授業観察（100分）と研究会（60分程度）の2部構成とします。
※授業観察と研究会、両方への参加が原則ですが、参加者の都合によっては授業観察のみに参加することも可能です。
- ④ 参加申込：高等教育開発・支援センターHPの申込みフォームより受け付けます

3. 授業研究会のプロセス

第1ステップ 事前準備

- シラバスを確認し授業の概要を把握してください。
- 授業資料、授業観察シート兼アンケート等の資料を所定のURLからダウンロードして目を通しておいてください。

第2ステップ 授業観察

- 授業観察の観点（後出）を意識しながら授業観察を行い、授業観察シート兼アンケートに記入してください。

第3ステップ 研究会

研究会では、授業担当者と参加者の双方による振り返りや感想などを参加者全員で共有した上で、意見交換を行い、授業改善や発展につなげることを目指します。

- あらかじめ、授業観察シート兼アンケートに必要事項を記入しておいてください。
- 参加者は、議論の中で提示されたポイントなどを記録するようにしてください。

第4ステップ 終了後

- 授業観察シート兼アンケートをファシリテーターに提出してください。

授業観察の観点

<講義形式の場合>

- ① 学習目標を達成するうえで講義の内容・水準は適切か。
- ② 学生に目標を伝えているか。学生の経験や知識（学生の現状）とリンクしているか。
- ③ 授業計画の構成（導入、運営、まとめと振り返り）は適切か。
- ④ 授業の進行（プレゼンの速度、タイミング、音声や視覚的な状態、資料等の提示）は適切か。
- ⑤ 学生とのコミュニケーションは十分か（双方向性、質問など）。
- ⑥ 教授学習プロセスにおける学生の参加、関与は十分か。
- ⑦ その他

<少人数・グループ制授業の場合>

- ① 学習目標との関連性は適切か。
- ② 教員、TA、QLA など支援者と学生との相互関係はどうか。
- ③ 教員のファシリテーションスキル（学生参加、グループの運営、質問、傾聴、回答、批判的分析的な激励など）はどうか。
- ④ グループメンバー全員を巻き込んでいるか。
- ⑤ 学生への励ましがあるか。
- ⑥ 教育空間の使い方はどうか。
- ⑦ 形式化された（目に見える形の）フィードバックは十分か。
- ⑧ 学習のまとめが適切か。
- ⑨ 学生自身の気づきや学びへの支援が十分か。
- ⑩ その他